

まちづくり懇談会（朝日地区） いただいたご意見

日時：令和7年2月21日 18：30～21：00

市参加者：渡辺市長、泉山教育長、大橋総務部長、丸市民部長、東川健康福祉部長、
坂本経済部長、三上生涯学習部長、増田企画課長、萩田企画課副長、企画課職員

市民参加人数：26人

（1）総合計画の基本的な考え方について（資料1）

■ご意見1

- ・平成17年に、昭和の合併において問題となっていた（合併した自治体の）規模の小さい側の町の衰退に配慮しつつ、両地域の均衡の図れた発展という視点で新設計画を作成し、合併特例債を活用したまちづくりを進めてきたと思うが、現実はかけ離れている。朝日町の衰退が著しい。新しい計画では、両市町の均衡の図れた発展など、合併特例法に関する記載はあるのか。

■回答1

- ・均衡の図れた両地域の発展の視点に関して、新たな総合計画への記載方法について検討している。

■ご意見2

- ・将来の人口推計8,600人を前提に計画を作成するということが良いのか。

■回答2

- ・人口推計に基づく計画を作成する。今回の計画では市民アンケート（幸福度調査）を活用しており、次期計画では住民の幸福度を向上させていく内容としたい。

■ご意見3

- ・合併後の19年で朝日町は非常に疲弊したまちになってしまった。自分自身議員として当時の合併協議に携わり、年160回を超える協議を経たが、振り返ってみると対等合併であったかはわからない。配付の資料では、施設の統廃合は朝日地区に点在している施設がほとんどとなっている。朝日地区には一通りの施設が揃っているのに、住民の利便性などを考慮すると延命して欲しいと思う。財政状況が厳しくなっているが、そのしわ寄せが朝日地区に向けられていると感じる。住民はまちを誇りに思っているなか、現在の朝日地区

が、対等合併で描いた状況であったのかと思うと非常に残念に思う。住民との協議などもないまま昨年唐突に施設の統廃合について記者発表があったが、乱暴ではないか。住民の意見や考えを十分にくみ取って議論を進めて欲しい。

■ご意見 4

- ・まちづくり総合計画を否定するものではない。朝日町を良くしていくため、今ある姿・今あるものの活かし方が計画にあっても良いのではないか。みんなのいろいろな思いを大事にして引き続き協議して欲しい。

(2) 持続的なまちづくりについて (資料 2, 3)

■ご意見 1

- ・壬子分館について、昨年 2 月から今後のことについて継続して話し合いをしてきている認識であるが、10 月開催の 2 回目協議の際に、令和 8 年 3 月で廃止と伝えられた。地域の高齢化もあり、あまり利用されていないなかでの廃止提案は仕方ないと思うが、壬子分館廃止後は朝日公民館 (朝日市街地) を利用してくださいと言われても距離的な問題もあり難しい。施設は十分に使用できると思うので、経費節減のため体育館の電気を止めるとかの工夫にも協力するし、10 年 20 年の延命ではなく、あと数年は廃止しないで欲しい。

■ご意見 2

- ・壬子分館の廃止については、建設した時の条件、なりゆきなどを支所長や課長に伝えている。朝日町の市議会議員にもいきさつを伝えた。土別市が簡単に廃止する問題ではない。

■ご意見 3

- ・統廃合は市全体の議論だと思うが、温根別の公民館は廃止の時期が違う (朝日の各分館より後の時期)。同じ公民館であれば公平に扱って頂きたい。継続していただきたい。

■ご意見 4

- ・壬子分館は指定避難所である。三栄と朝日市街地の中間に位置し、災害発生時は機能を発揮する。サンライズホールに避難するとしても、途中、市街地から 5 km 地点にあるペンケヌカナンブ川が氾濫することもあり、道路寸断のおそれもあるのでよく考えて欲しい。

■ご意見 5

- ・壬子地区は限界集落であり自分もあと何年生きれるか。あと 4～5 年もすればコミュニティ活動が難しくなることは明らかなので、それまでの間は施設もまだ十分に使用できる

ので存続していただきたい。現在、維持管理費として年間 30 万円、電話料金やし尿のくみ取りが 3 万、6 万など。そのほか春夏秋には地域の住民で草刈りを実施している。あと何年か存続していただけるのであれば、維持管理費の一部を住民で負担しても良いと考えているので、今後申し少し議論をさせて欲しい。

■ご意見 6

- ・他の市内の公民館分館が他にいくつあるか把握していない。今回は朝日の各分館の廃止が提案されているが、それはなぜか。市内で他に廃止すべき基準にある分館があったとすれば、朝日以外の分館の廃止提案がないのはなぜか。廃止に関する明確な基準があったのならば、説明いただきたい。各地区からサンライズホール（朝日公民館）まで 5～10 km 以上距離があるが、高齢者が多いため全員が自家用車で通うことは難しいこともあり、不安がある。廃止提案とあわせて移動手手段の確保についての説明がない。あと数年、朝日の 3 分館を維持するだけの財源がないから廃止なのか、その覚悟があるのかお伺いしたい。

■ご意見 7

- ・住民の合意が得られていないなかで報道発表するのはおかしい。

■回答 1～7

- ・この間、3 地域の関係者と協議してきた。地区の世帯数の減少や高齢化などにより、廃止提案をしたことは市としても苦渋の決断である。地域として協力する意思があることも確認している。災害のことや廃止時の移動手手段の確保なども含めた協議を今後も継続していきたい。また、市内の他の分館についても、高齢化や利用減など同様の状況にあり、廃止の協議を進めている施設もある。

■ご意見 8

- ・廃止の優先順位がよくわからない。また廃止した後の朝日地区住民の幸福度はどれくらい下がるのか。また、スキー場も廃止ということだが、全国的にも珍しい市街地にあるスキー場として町のランドマークになっていることもあり、再度検討して欲しい。

■ご意見 9

- ・住民の合意を得る前に報道発表するのは乱暴であるし、住民が知らないまま報道が先行すると不安が募る。朝日の住民が切り捨てられてるようで寂しさも募る。今後は、事前に住民と協議の回数を重ねて、議論を進めるように願います。

■ご意見 10

- ・あさひスキー場はリフトも動いているし事故もない。ロッジも使える。老朽化と言うのが良くないかわからない。継続を望む。

■ご意見 11

- ・何が危険なのか士別市として調べたのか。

■ご意見 12

- ・あさひスキー場が供用開始されてから 44 年経過しているが、社会教育施設としての役割は十分果たしていると認識しており、重要な役割を持つ施設だと思う。設備の老朽化への対応はあるが、日向スキー場とあさひスキー場の統合が最適なのかわからない。本日も上士別保育園の幼児教室や帯広畜産大学の合宿利用があるほか、朝日 A S S（少年団）所属 2 名の全国ジュニアオリンピックの出場も決まった。指導者も含めた練習環境としては最適な環境であるほか、合宿など朝日地域への経済効果もある。老朽化への対応（方法論）を協議する場を設けていくことも検討して欲しい。今後人口がどうなっていくかはわからないが、将来を見据えて計画を作成するなかで、日向スキー場（日向第 2 リフト改修の議論がある。あさひスキー場の存続の議論の余地もあるのではないか。）も含めて時間をかけて検討していただきたい。

■ご意見 13

- ・渡辺市長になってから施設の統廃合など問題がたくさんでてきた。これまで問題を先送りにしてきたとか時期が悪かったということはあるかもしれないが、やり方が良くない。今日多くの方が集まったのは、報道の内容に対して怒っているからだと思う。

■ご意見 14

- ・老朽化しているが公民館はまだ使える。原則使用を前提とした議論をお願いしたい。また、廃止提案をするのであれば移動の手段についてもあわせて提示いただきたい。

■回答 8～14

- ・令和 6 年度第 1 回目の市政執行方針のとおり、公共施設マネジメント計画は平成 29 年度からの取り組みの計画であり、策定段階からどの施設がいつ今後のあり方を検討するか時期を示していたところであるものの、議論が予定通りに進捗していないため、スピード感をもって議論を進めていく旨説明したところ。その後も市内での議論に時間を要してしまい、議会側からの施設の統廃合等の案について開示すべきとの要請もあり、11/15 の記者会見において、どの施設がいつ統廃合するか住民に説明を行わないまま報道発表してことについてはお詫びする。
- ・あさひスキー場について、リフトの耐用年数は索道協会が示した目安でしかないが、管理者である士別市としては、点検で基準を満たしたとしてもいつ事故が起きるかわからないものを放置しておけない。財政的な理由で、公営で 2 つのスキー場を有する自治体はほばない。教育施設としての位置づけもあり日向、あさひともに赤字経営であるがこれまで

存続してきたが、このまま維持するとなると、あさひスキー場の設備の更新は避けられず億単位の負担をすることになり、それをこれから先 40 年維持することは考えられないため、今回の提案となった。今後の議論にあたっては 40 年先を見据えて進めていきたい。また、公民館分館については、今回の提案で示してはいないことはお詫びするが、統合した際の交通手段も含めて検討はしている。

- ・スキー場について、国が明確に定めた基準ではなく索道協会の示した基準でしかない。検査は実施しているが支柱など、メーカーの示した耐用年数を超過しているなかで運行している。あさひを改修するとなると全面的な工事であり 10 億規模。
- ・合併特例法に関して、特例債は当初、公共施設の最適化を図ることを目的に合併後 10 年まで活用できる制度であったが、延長され、士別市においては、今年度三望台シャンツェの改修で活用している。
- ・財源や人口減少の問題、施設の管理も担い手の不足等により維持が難しくなっているなか、施設を残すことによる将来世代の負担について、考えていかなければならない。施設の統廃合の時期が提案の内容から変わっていくこともあると思う。まずは対等な立場で意見を出し合いながら協議していきたいのでご理解いただきたい。

■ご意見 15

- ・施設について、これから先 50 年 100 年残して欲しいとお願いしているのではない。廃止しなければならない議論は行政内部でしっかり行われたのか教えて欲しい。国などの基準で判断しているのではないか。自身が職員として在籍していた時に開かれた財政状況説明会では、このままでは財政が硬直化し、今後予算を組むことが難しくなると説明されていたが、具体的にどう対応していくかなどの説明はなかった。今回、施設の統廃合等が提案されているが、その背景にある予算の硬直化のおそれなど、市民が把握できていないし、今回の提案は唐突であると思う。市民生活に直結する問題ばかりだが、次の世代のために我慢してくださいと言うが、一理あるとは思うものの、市民ばかりではなく行政の対応はないのか。市長の覚悟はあるのか。広く市民にアピールして欲しい。市長の考えをお聞かせいただきたい。

⇒行政の対応というのは何か。

- ・具体的な想定はないが、前市長が実行した職員の給与削減について、渡辺市長は 1 年早く取りやめた決断は評価したいし当然のこと。しかし、財政の問題は依然として残っている。職員の給与をまた下げろとという意味ではないが、士別市役所として工夫できることや対応できることについてあるのかなのか、教えて欲しい。

■回答 15

- ・施設の提案について、延命措置という案も出されているが耐用年数や数値などにに基づき提案している。市民の合意が得られれば早く方向性について決断すべきものと考えている。昨日も士別地区において職員の給与削減について減らすべきとの意見があった。コロナ

渦による臨時交付金や事業の未執行などによる財政収支の上振れがあったことや職員の状況を考慮し、計画の3年より1年早く削減を取りやめたところ。職員は、平時ももちろん災害や非常時も市民を守るためにプライドと誇りをもっていないと、もしもの時に機能しない。職員の数は減らしていくが、給与削減は市民サービスの低下に繋がるので行わない。

■ご意見 16

- ・なぜあさひスキー場を廃止して日向スキー場の第2リフト改修を行うのか。53年前にスキーの選手として移住してきた。スキーのまちに住んでいるという自負がある。稼働率の悪い日向第2リフトをやめてでもあさひを残して欲しい。偏った行政運営をするのは許しがたい。

■回答 16

- ・先般あさひスキー連盟から要望書を受け取ったところ。日向第2リフトの改修が決定しているものではない。要望に対する回答は後日行いたい。

■ご意見 17

- ・正規職員を減らす一方、臨時職員が増えてしまってはだめだ。

■ご意見 18

- ・今後のまちづくりや行政運営全般で、似たようなまち同市で連携して必要なことを国や道にしっかり働きかけて欲しい。

■回答 18

- ・これまでも必要な要望活動は行ってきた。地方の構造はどこも同じであり、他の市町村と連携していないとにならないことは理解している。先般、上川23市町村による新たな連携も発足されたところ。今後は歳出の削減だけでなく、歳入の確保も図っていく。

■ご意見 19

- ・これからも話し合いの場はあるのか。

■回答 19

- ・今回のまちづくり懇談会を踏まえて開催する。

(3) その他

ご意見なし